



真剣な意見が飛び交う会合。発想力や行動力を発揮して、着々と準備を進める。



齋藤学長も応援に駆けつけた、第3回オープニングセレモニー。



「わっかもん!ASIA 舞踏祭」のシンボルマーク。初代のメンバーが何気なく描いたイラストが採用された。



今年の第3回わか祭は、30数チームが参加。観客数も3,000人近くに及んだ。



わか祭を幅広い年代に楽しんでもらうため、出店やフリーマーケットなどいろいろなコーナーも設けている。

# 踊りのパワーで長崎を元気にしたい!!

「わっかもん!ASIA 舞踏祭」

(以下、「わか祭」)は、園児からお年寄りまで、

いろんな踊りのチームが集まって、自分たちの演舞を次々に披露

していく賑やかなお祭りです。毎年3月上旬の土曜日、長崎水辺の森

公園で開催。港ののびやかな景色をバックに、よさこい、沖縄のエイサー、ヒップ

ホップ、ラテン系ダンスなど多彩なジャンルの踊りが繰り広げられ、踊る側も見る側も、笑

顔いっぱい楽しい時間を過ごします。

「わか祭」は、平成18年に長崎大学の学生などを中心とした若者たちによって立ち上げられました。

「「わっかもん」とは、長崎で「若者」のことをいいますが、ここでは「老若男女を問わず、長崎の元気な人々」

という意味です。このお祭りは、そういう人たちのパワーや踊ることの楽しさで、まちを元気にしたいという思いから

スタートしました」と話すのは、代表の野口汐里さん(教育学部4年)。毎年3月に開催するのも、「長崎の代表的なお祭りやイベントがこの月だけなかったから」だそうで、地元にも少しでも貢献したいという真剣な思いが伝わってきます。

## 「わっかもん!ASIA 舞踏祭」実行委員会

実行委員会の会合は毎週1回。参加チームの呼びかけを始め、資金を集める「協賛まわり」や、会場の設営・機材のリースのことなどについて話し合い、来年3月の第4回開催に向けて少しずつ確実に準備を進めています。

「参加を呼びかけると、やってみたいけど、踊りを知らないという人たちもいます。そんな時は、踊りを教えに行く活動もしています」と話すのは副代表の中本雅也さん(工学部3年)。実行委員には、中本さんをはじめ長崎大学の「よさこい部」のメンバーを兼ねている人も多く、そういう人たちが率先して指導にあたります。

「前回、地元ロータリークラブの方々にもいろいろな面でご協力をいただきました。私たちが知らないこと、気づかない点などを指導していただき心から感謝しています」という野口さんは、今年、初代代表の卒業で、二代目を引き継いだばかり。「これまでの参加チームやお世話になった企業の方などから、次も楽しみにしているよとか、準備はどこまで進んでいるの?などと声をかけていただくようになりました。

メンバーは卒業で代わっていきますが、きちんとバトンタッチをして、着実に回を重ね、もっと多くの人を元気にするお祭りに育ってほしいと思っています。」



**代表**  
**野口汐里さん**(教育学部4年)  
お祭りの名称に「ASIA」とあるのは、長崎が歴史的に国際色豊かだということで、このお祭りを長崎から全国、そして世界へと広げていきたいという思いが込められています。



**副代表**  
**中本雅也さん**(工学部3年)  
踊りはとにかく楽しい!!見るだけでも盛り上がります。

実行委員は現在26人。長崎大学の学生だけでなく、近隣の大学からもメンバーが集まる。